

平成25年度 第2回産業廃棄物処理施設専門委員会における議事要旨

日 時	平成25年10月18日（金） 10:00～12:00
場 所	埼玉会館 3C会議室（埼玉県さいたま市浦和区高砂3丁目1-4）
委 員 名	池口委員（委員長）、荒井委員、岩本委員、河村委員、木村委員、藤吉委員、
県 担 当 者	（産業廃棄物指導課） 葛西課長、金子主幹、田口主査、稲原主査、渡辺主査 山口主任、永吉主任、池田主事 （東部環境管理事務所） 三上担当課長
傍 聴 者 等	・さいたま市 2名 ・傍聴者 7名

【1. 会議の公開の可否】		
質問・意見		発言等
1	委員会の公開について説明を求める。 （委員長）	<ul style="list-style-type: none"> ・設置要綱第6条の規定に基づいて、原則公開とすることになっています。 ・委員会を公開する場合には、委員長は必要な条件を付することができることになっています。 （事務局）
2	意見質問がなければ、公開の原則に従い、本会議は公開としたい。 （委員長）	<ul style="list-style-type: none"> ・異議なし （各委員）

【2. 産業廃棄物処理施設設置許可申請について】		
質問・意見		回 答
1	質問2について ドラム缶処理室の防爆対策の中で、受入時にドラム缶を開けてチェックし爆発のおそれがある廃棄物がドラム缶室に投入されることを防ぐとあるが、液状物や固形物等を見ただけで（どのような成分か）判別できるのか。 （委 員）	<p>外観だけで見分けることは難しいと思いますので、排出事業者からの情報等も元にして爆発性についても判断します。 （事務局）</p>

質問・意見		回 答
2	<p>県からの回答にその旨が記載されていない。</p> <p>(委 員)</p>	<p>確かに記載されていませんが、廃棄物の受入時のマニュアルを作成し、ドラム処理室を含めた焼却炉内で、爆発が起こるような廃棄物が持ち込まれることを防ぐ計画となっています。</p> <p>(事務局)</p>
3	<p>質問1の②について</p> <p>「スートブローで空気を吹き」とあるが、空気ではなく蒸気ではないか。</p> <p>(委 員)</p>	<p>廃熱ボイラから発生した「蒸気」を利用します。</p> <p>(事務局)</p>
4	<p>質問9について</p> <p>排ガス中のNOx濃度であるがガス処理の後のものか。</p> <p>(委 員)</p>	<p>排ガス処理が終わった後の煙突出口での濃度です。</p> <p>(事務局)</p>
5	<p>質問4について</p> <p>廃酸・廃アルカリ受入時のチェック項目中の「WDS」とは何を指しているか。</p> <p>(委 員)</p>	<p>「WDS」とは、Waste Data Sheet (廃棄物データシート) のことです。</p> <p>(事務局)</p>
6	<p>質問5について</p> <p>様々な産業廃棄物が搬入されて混合物となるが、混合割合によって発熱量が変動することになるだろう。</p> <p>混合割合をコントロールすることができるのか。</p> <p>(委 員)</p>	<p>様々な廃棄物が持ち込まれますが、設計発熱量となるよう各廃棄物を混合して焼却する計画です。</p> <p>ただし、発熱量のコントロールについては、オペレータの熟練を要することを事業者も認識しています。メーカーが使用開始から最低3月は実地研修することになっていますが、研修が終わった後もサポート体制がとれるようにやっていきたいと考えています。</p> <p>(事務局)</p>
7	<p>質問5について</p> <p>排ガス中のNOx濃度は、チャートデータなのか煙突の検出口から測定した分析データか。</p> <p>(委 員)</p>	<p>NOxデータは、煙突の排出出口(測定孔)における計量証明の付いた測定結果です。チャート紙の結果ではありません。</p> <p>(事務局)</p>
8	<p>日々の運転操作で、発熱量を管理して焼却するのは難しいのではないか</p> <p>(池口委員長)</p> <p>排ガス量が大きくなりすぎると排ガス処理設備の能力を超えることがあるので、その管理はする必要がある。</p> <p>(委 員)</p>	<p>実際には、温度が上がれば廃棄物の投入量を減らすなど、投入のコントロールを身につけていただくこととなります。</p> <p>(事務局)</p>

質問・意見		回答
9	<p>質問6について</p> <p>ストーカ炉内のロストルについて、水冷管の本数が段によって違う。それぞれの間隔はわかるか。</p> <p>(委員)</p>	<p>1段目は400mmピッチ、2段目・3段目は300mmピッチです。</p> <p>(事務局)</p>
10	<p>類似施設は、同じような設備か?</p> <p>(委員)</p>	<p>先日視察に行った類似施設では、基本的に汚泥の投入は行いません。今回同様、ロストルが水冷管のタイプですが能力は約半分です。</p> <p>(事務局)</p>
	<p>燃え殻の状態は。</p> <p>(委員)</p>	<p>炭素分が残っていたように感じましたが、熱しやく減量の10%はクリアできています。</p> <p>(委員)</p>
11	<p>質問8について</p> <p>雨水利用の考え方であるが、年間総雨量とのバランスから大丈夫という話にはならない。</p> <p>短時間に相当量の降雨であればオーバーフローするのではないか。この場合の対応をどうするかがないと、廃棄物由来の雨水は敷地外へ排出しないという前提が崩れるのではないか。</p> <p>単純に雨水を用水として利用するだけであれば、雨水貯留槽の容積を計画すれば、何日間溜めこんでそれ以上はオーバーフローするが放流して良い水である、という説明で構わない。</p> <p>(委員)</p>	<p>貯留槽の容量については計算していません。</p> <p>添付資料8に雨水利用のバランスについて記載されています。</p> <p>集水量が貯水量にあたるが、この量に対し必要水量のほうがかなり多くなっています。</p> <p>雨水が利用できない部分は工業用水を利用する計画になっています。</p> <p>(事務局)</p>
	<p>集中豪雨等がおこり、貯水槽が1日でオーバーフローする場合どのように対応するかということを知っている。</p> <p>(委員)</p>	<p>添付資料8「プラント用水として利用する雨水及び床洗浄の集水エリア」で、雨水を集水して利用するエリアは、事業場全体の敷地から考えるとそこまで広くありません。</p> <p>そのため、集中豪雨等で発生する雨水のほとんどが工業団地内にある調整池に流れることとなりますが問題ないと考えます。</p> <p>(事務局)</p>
	<p>事業場外に出る場合もあるならば、そのように説明する必要がある。</p> <p>(委員)</p>	<p>訂正します。</p> <p>(事務局)</p>

質問・意見		回答
12	<p>質問10について</p> <p>10のローターリーキルンの接合部におけるシールで、ロックウールというのであるが具体的なイメージがわからない。図からは金属や炭素かと考えられる。</p> <p>ロックウールというと柔らかいものを想像する。</p> <p>(委員)</p>	<p>ロックウールを主成分としているシールを用います。</p> <p>使用するシールは、柔らかいものではありません。</p> <p>(事務局)</p>
	<p>シールの材質がロックウールか。</p> <p>(委員)</p>	<p>柔軟性があり、また耐熱性、耐摩耗性の高いシールを使用します。また、定期的に変換します。</p> <p>(事務局)</p>

【3. 今後について】		
	進行	発言等
1	<p>追加の質問があれば事務局へ10月25日までをお願いしたい。</p> <p>(委員長)</p>	<p>了解した。</p> <p>(各委員)</p>
2	<p>委員会としてはこれで終了とする。</p> <p>(委員長)</p>	<p>了解した。</p> <p>(各委員)</p>
3	<p>委員からの質問・回答が終わった段階で知事あての意見書を作成する必要がある。</p> <p>委員長が意見書の素案を作り、各委員にチェックしてもらい最終的に委員会としての意見書とする。</p> <p>(委員長)</p>	<p>了解した。</p> <p>(各委員)</p>
4	<p>1～3の手順で今後は進めていきたいがどうか。</p> <p>(委員長)</p>	<p>異議なし。</p> <p>(各委員)</p>
5	<p>今日の委員会で質問のあり、回答が必要な事項については、早急に事務局あるいは事業者から回答を取り寄せ委各員の了解を得る必要がある。</p> <p>この作業が終了してから意見書の素案を作成する。</p> <p>(委員長)</p>	<p>了解した。</p> <p>(各委員及び事務局)</p>